

地域体験活動(1)
株式会社 近江鉄道 訪問
～近江鉄道の取り組みを学ぶ～
2024年9月8日(日)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.3



地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。

近江鉄道本社へ訪問 & 実際に乗車

子どもたちは、地域体験活動の一環として、「近江鉄道」さんの取り組みについてお話を伺いました。「近江鉄道」さんは、59.5km、33駅を結ぶ鉄道を中心に事業を展開しています。かつて1967年には1,126万人の利用者がありましたが、現在は460万人にまで減少。1994年度から赤字が続いており、現在は上下分離方式で運営されています。鉄道運営を「近江鉄道」さんが担い、施設や車両の維持を自治体などが担当する形です。

「近江鉄道」さんの役割として、利用促進や沿線地域の活性化、魅力発信、ファンの育成などが挙げられます。その具体例として、「近江ピア電」のような企画列車の運行や、地域住民と鉄道のあり方を共に考える「近江鉄道未来ファクトリー」などの活動が紹介されました。子どもたちは、「近江鉄道」さんの地域貢献と未来を見据えた取り組みについて学び、多くの発見を得た様子でした。



ガチャフェスから見る沿線の盛り上げ方



2022年に開催された「ガチャフェス」では、全線無料にして、沿線ではたくさんのイベントを実施していました。目標10,000人のところを、1日で38,000人が利用し大盛況。2023年度も20,000人の利用がありました。課題も多いが、いろんな解決策や改善策をどんどん実行する近江鉄道さんの取り組みに子どもたちは、興味津々に話を聞いていました。伺った取り組みを滋賀県全体に広げるためにどうしたらいいのかということで、実際に近江鉄道に乗りました。

近江鉄道さんご紹介

琵琶湖の東岸、彦根市・東近江市を中心とする湖東平野に、本線（米原～貴生川）、多賀線（高宮～多賀大社前）、八日市線（八日市～近江八幡）の59.5kmとなる鉄道を運行しています。沿線住民の交通の便として、また湖国滋賀の観光の便としてご利用いただいております。今回は、公共交通がテーマなので、公共交通と地域活性化、また観光魅力の面で、子どもたちにお話をいただきました。

子どもたちの学びと感想

近江鉄道の取り組みについて学んだ子どもたちから、以下のような感想が寄せられました。

・地域活性化の取り組みについての気づき

「地域でのイベントを通じて街を活性化する取り組みを知ることができた。」

・滋賀県全体への影響

「いろんなイベントや企画切符の取り組みを詳しく聞いて、滋賀県全体の交通にも活かせると思った。」

・鉄道の重要性

「近江鉄道がなくなると、不便に感じる人が多くいることがわかった。特に学生の3割が困るということを知り、その必要性を改めて感じた。」

・実際の利用状況の発見

「以前はガラガラのイメージを持っていたけれど、実際に乗ってみると多くの人が利用していて、企画切符が良い効果を生んでいると感じた。」

・課題への理解

「整備費用などでお金が不足している現状があることがわかった。」

・運営の工夫に感銘

「ただ電車を増やせばいいわけではなく、地域やイベントに合わせた運営をしていることが素晴らしいと思った。」



まとめと今後の活動に向けて



子どもたちは、近江鉄道が地域にとってどれほど重要な役割を果たしているのか、またその運営が地域や人々に密着した工夫によって支えられていることを学ぶ貴重な機会を得ました。こうした気づきが、滋賀県の交通や地域活性化について考えるきっかけとなっています。